



米国会計関連情報 最近の論点

FASB-金融商品の減損に関する再審議の継続

2014年2月19日のボード会議において、FASBは、金融商品の減損に関する基準書案(ASU案)¹を引き続き再審議し、未収利息不計上(nonaccrual)に関するガイダンス、購入時に信用が毀損している(purchased credit-impaired, PCI)資産及び不良債権のリストラクチャリング(troubled debt restructuring, TDR)について討議した。

【重要な決定事項】

FASBは、以下の事項について暫定合意に達した。

- 未収利息不計上に関するガイダンスは、減損プロジェクトには含めない。
- PCIに関するアプローチ案を、PCIでない金融資産には適用しない。
- PCI資産のポートフォリオの取得により生じる信用以外のディスカウントまたはプレミアムを個々の資産へどのように配分するかについての適用ガイダンスを提供しない。
- TDRの区分は維持する。TDRとTDR以外の条件変更の会計上及び開示上の違いについては、減損プロジェクトでは取り扱わない。
- 状況によっては、TDRの実行時に資産の償却原価ベースを引き上げなければならない可能性がある。その引上げに対応する金額は、企業の予想信用損失に係る引当金の増加として認識する。

他方、IASBは、FASBとは異なる減損モデルを最終化することを決定した。

KPMGは過去に、減損に関するASU案と、分類及び測定に関するASU案、並びにそれぞれの提案に関して暫定合意に達した事項について、詳細な情報を提供している²。

¹ ASU案「金融商品—信用損失」2012年12月20日。 www.fasb.orgより入手可能。

² 詳細については、KPMGによるDefining Issues No. 13-56「金融商品の減損と分類及び測定に関するIFRSとのコンバージェンスは達成されない見込み」、Defining Issues No. 13-43「金融商品の減損並びに分類及び測定に関する再審議を開始」、及びIssues In-Depth No. 13-1「金融資産の信用損失に関するFASBのモデル案の適用」を参照。いずれもwww.kpmginstitutes.com/financial-reporting-networkより入手可能。

【未収利息不計上に関するガイダンス】

FASBは、未収利息不計上に関するガイダンスを減損プロジェクトに含めないことで暫定的に合意した。その代わりに、FASBスタッフは、銀行規制の対象外である企業の未収利息不計上の実務を理解するための調査を行う予定である。また、FASBスタッフは、米国の銀行規制当局と共同で、未収利息不計上の実務を調査する予定である。

背景及び考察

米国の銀行業界の現行の規制ガイダンスには、U.S. GAAPにおいて体系化されていない未収利息不計上に関する規定が含まれている。FASBは当初、未収利息不計上の金融資産について、規制対象企業と規制対象外企業との間の首尾一貫性及び比較可能性を高めるための具体的なガイダンスを提供することで合意していた。FASBは、未収利息不計上に関するガイダンスの全般的な目的を規制ガイダンスと同様のものとするを意図していたものの、ASU案には具体的な規制ガイダンスではなく原則が含まれていたため、両者の間に差異が存在していた可能性がある。未収利息不計上に関するガイダンスを除外することによって、規制上とU.S. GAAP目的とで別々の計上額を保持することを要求する可能性のある潜在的な差異が排除される。

【購入時に信用が毀損している金融資産】

FASBは、PCIに関するアプローチの適用範囲をPCIでない金融資産にまで拡大しないこと（例：組成時以降の信用度の悪化の程度にかかわらずすべての購入した資産を適用範囲としないこと）を暫定的に決定した。また、PCI資産のポートフォリオの取得による信用以外のディスカウントまたはプレミアムを個々の資産へどのように配分するかについて、適用ガイダンスを提供しないこととなった。

背景及び考察

PCI金融資産は、取得した個々の金融資産（または取得した金融資産のグループ）のうち、組成時以降に信用の質が著しく悪化したものと定義される。予想信用損失に関連する購入時のディスカウント（すなわち、購入価格に組み込まれている信用に関連するディスカウント）は、取得日に信用損失に係る引当金として認識される。この引当金は、当期純利益における減損損失としてではなく、財政状態計算書におけるグロスアップを通じて、償却原価ベースの増加として認識されることになる。FASBが、PCIに関するアプローチをすべての購入した金融資産に適用すべきであるという市場関係者の意見に同意しなかったのは、購入価格を信用要素と信用以外の要素とに配分することに伴うコスト及び複雑さが一因となっている。

市場関係者は、貸付金の期限前返済または売却時の資産の原価配分を正確に算定するために、信用以外の要因によるディスカウントまたはプレミアムを個々の資産に配分する方法を定めた適用ガイダンスを追加する必要があると指摘した。FASBは適用ガイダンスを提供しないことで暫定合意したものの、「結論の根拠」において、利用可能な配分方法は複数あり、特定の方法を規定することはない旨を記載する予定である。

【不良債権のリストラクチャリング】

FASBは、TDRの区分を維持し、TDRとTDR以外の条件変更の会計上及び開示上の違いについては減損プロジェクトでは取り扱わないことを暫定的に決定した。FASBはまた、状況によってはTDRの実行時に資産の償却原価ベースを引き上げなければならない可能性があり、その引上げに対応する金額は企業の予想信用損失に係る引当金の増加として認識することで暫定合意した。

FASBはまた、TDRの実行時の計上額のベース・アジャストメントを測定する際に予想される期限前返済を考慮に入れることができるか否かについて審議した。FASBは、企業は予想される期限前償還を考慮に入れ、実際の期限前償還の時期が予想されていた時期と異なる場合には調整後の利回りを将来に向かって反映させることができるということで合意した。この合意は、スタッフが作成するこの代替案に関する設例をFASBが見直すことによって変更される可能性がある。

背景及び考察

一部の市場関係者は、TDRとTDR以外という分類に目的適合性はないと考えている。FASBは、一般的にTDRの区分は目的適合性を有しており、意思決定に有用な情報を提供するものであると考えている。

ASU案は、新たな契約上のキャッシュフローを前提としたTDR後の実効金利が当初の実効金利と一致するようにTDRを伴う資産の償却原価ベースを調整することを要求している。市場関係者は、特定の状況下（例：TDRの実行により金利の上昇とともに貸付期間の延長が行われる場合）で、条件変更後のキャッシュフローの現在価値が償却原価ベースを上回るになると指摘した。ただし、企業がTDRの実行時に償却原価ベースを引き上げることをASU案が認めているか否かは明確ではない。このFASBの暫定合意を踏まえた場合、特定の状況下で、企業は予想信用損失に係る引当金の増加とともに償却原価ベースの引上げを行うことになる。

編集・発行

有限責任 あずさ監査法人
US GAAPアドバイザリー室

e-Mail: AZSA-USGAAP@jp.kpmg.com

ここに記載されている情報はあくまで一般的なものであり、特定の個人や組織が置かれている状況に対応するものではありません。私たちは、的確な情報をタイムリーに提供するよう努めておりますが、情報を受け取られた時点及びそれ以降においての正確さは保証の限りではありません。何らかの行動を取られる場合は、ここにある情報のみを根拠とせず、プロフェッショナルが特定の状況を綿密に調査した上で提案する適切なアドバイスをもとにご判断ください。

© 2014 KPMG AZSA LLC, a limited liability audit corporation incorporated under the Japanese Certified Public Accountants Law and a member firm of the KPMG network of independent member firms affiliated with KPMG International Cooperative ("KPMG International"), a Swiss entity. All rights reserved.

The KPMG name, logo and "cutting through complexity" are registered trademarks or trademarks of KPMG International.

この文書はKPMG LLPが発行しているDefining Issues®
Feb. 2014 No. 14-12をベースに作成したものです。

上記の記述及び要約を、SECレギュレーション及び潜在的または現行の規定の代用として取り扱わないようにご注意願います。U.S. GAAPを適用する企業またはSECへのファイリングを行う企業は、関連する法規制及び会計規定の原文を参照するとともに、自社の特定の状況を検討し、会計及び法律顧問に相談されることをお勧めいたします。

本ニュースレターの内容に関しご質問等がございましたら、エンゲージメント・チームの担当者までご連絡ください。